

# 平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立上尾橋高等学校 )

目指す学校像 **地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。**

重点目標  
1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。  
2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。  
3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。  
4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	12名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価	
年度目標					実施日 平成27年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	生徒の規律意識や協調性、基本的生活習慣は改善傾向にあるが、欠如している生徒が少なからず存在している。したがって、より一層の改善に向けての方策を講じる必要がある。また日常の指導に加え、体験的活動を通して、社会の一員としての規範意識と個人の判断能力を身につけさせたい。	○基本的な生活習慣を身につけさせる	①家庭との連絡・連携を強化することにより、家庭と学校相互で指導できる体制にする。 ②生徒情報を共有し、受容的な指導と毅然とした指導を使い分けながら、整容指導・遅刻指導等、生活指導を強力に推進する。	①学校評価懇話会・PTAからの意見等で、信頼されている評価が得られたか。 ②欠席・遅刻・早退が減少したか。また、特別生徒指導の数が減少したか。	規範意識の向上と落ち着いた学習環境の構築 ①寺子屋に対して昨年比10.9%増、・服装頭髪指導などに対して1.7%増と、学校をあげての取組が評価されている。 ②特別指導の人数は昨年の3分の2で、2年連続で減少した。日々の個人面談や担任団の家庭連絡等、きめ細やかな指導の成果が出ている。	A A
		○生徒の規律意識を高める。	①生徒会活動・部活動・体験活動などを活性化させる。 ②学校行事等に生徒が主体的に関わる環境を作る。	①活動に参加した生徒が増えたか。 ②アンケートなどで学校行事に対して肯定的な回答が増えたか。	生徒の自主的な活動によるマナーアップ運動を行うことができた。 ②就労体験の好感度は昨年比6.2%増加。生徒は職業意識等の向上を図ることができた。	
2	基礎学力が十分でない生徒がまだまだ多い中で、多様な学習指導を展開する工夫や授業改善が必要である。一方では、着実に学力を向上させている生徒たちもいるので、成績上位者をさらに伸ばす取り組みが急務である。	○基礎基本の定着と学習意欲を伸ばすための授業力向上。	①多様な生徒のニーズに応える授業を展開する。そのための授業力向上研修会も推進する。 ②チャイムtoチャイム授業の徹底で、日常授業を大切に育てる姿勢を育てる。	①学習意欲の向上が授業アンケートの結果にあらわれたか。 ②チャイム始業は習慣化しているか。日常授業に取り組む姿勢は向上したか。	授業満足度94%を達成。 ①授業アンケートでは24項目中17項目について「はい・どちらかといえばはい」を合わせた回答が上昇している。授業担当による不断の努力の成果がみられる。 ②年度当初に比べほぼチャイム通りに授業が始められている。指導により意識が向上した。	A A
		○資格取得の活用や補習授業など、プラスαの学力をつける教育活動の推進。	①資格取得できる機会を周知徹底させる。 ②学力向上のための補習授業を充実させる。	①資格取得できた生徒は増えたか。 ②学期末欠点の生徒は減少したか、欠点を解消した生徒は増えたか。	資格取得の充実と学習意欲向上 ①のべ109名の生徒が新たな資格を取得した。(2/1現在)1年生は2月以降の実施となる。 ②欠点保有者の解消率が、昨年比で3.9%上昇。成績優良者も6人増えた。	
3	就職希望者の内定率100%を維持しているが、多様な生徒のニーズに応えられるような組織的取り組みがさらに必要となっている。したがって生徒自身の進路意識をより一層高めさせると同時に、自己理解の深化を図り、確実な進路決定につなげていく。	○生徒一人ひとりの希望を叶える進路指導の展開	①日常の個別進路相談を丁寧に行い、進路指導部と学年で情報共有をして指導にあたる。進路資料室の整備を行い、時期にあった情報を提供できる環境を構築する。 ②校外での体験活動や見学会等を通じて社会の実情理解と自己の将来を考えさせる。 ③進路ガイダンス、進路適性検査などを利用して、自己理解を深めさせ、進路実現を図る。	①分掌と学年の間で進路情報・生徒情報の共有はできたか。適切な進路指導に生かされたか。生徒や保護者に進路情報を積極的に発信できたか。 ②各種体験活動等を進路指導に生かすことができたか。 ③進路ガイダンス等を通じ生徒に適切に指導できたか。就職や進学希望は実現できたか。	情報の共有と進路指導の充実 ①資料閲覧用パソコンを4台新たに導入。「親子で企業選び」が実現。また、3学年と進路指導部の連携により企業訪問を実施できた。 ②就労体験やインターンシップを通じて、社会の現状認識や自己探求が進んだ。2年生の見学会で進路決定の自覚を持たせることができた。 ③進路ガイダンス後の指導を作文形式に変更して学びを深めることができた。外部講師の面接指導のべ43日。ハローワーク職員による面談人数17名。1月末現在就職内定率85.2%。	A
4	学校通信「橘」の地元自治会への回覧を実施。生徒の活躍ぶりがよく分かる好評であった。そこで中学校・地域・保護者に本校生徒の学校生活の活躍ぶりが、よりはっきりわかるような広報活動を定期的に続ける必要がある。また生徒の対外的な活動をより組織化し、学校全体の取り組みに位置づけると同時に、保護者と連携して学校行事の充実を図る。	○生徒の成長が伝わるようなきめ細かい広報活動	①「部活動通信」「橘トピックス」を統合し、生徒の活躍を伝えやすくする。 ②防災マニュアルも含め、緊急時の対応が迅速かつ的確にできるよう組織化する。	①「部活動通信」「橘トピックス」を統合したものを7回以上作成し、配布できたか。 ②日常的な情報発信や緊急時の対応は十分か。	広報活動の充実 ①「橘Topics」を新設。13回発行できた。 ②学校公式ホームページ・緊急連絡サイト・ツイッターの活用により、台風時の休業も混乱はなかった。	A B
		○学校外での生徒の活動の組織化と保護者からの積極的な協力体制の確立	①就労体験活動、ボランティア、交流事業を継続できるように組織整備をする。 ②保護者が学校行事に参加する機会を増やし、またPTAとして学校行事に協力していただける人数を増やす。	①就労体験、東北ボランティア、異校種間交流事業等の推進組織を整備することができたか。 ②PTAの活動として、交通安全活動や授業公開への参加人数が増えたか。体育祭文化祭等の行事参加や協力をしていただけた方々の人数が増えたか。	本校教育力のアピールと地域貢献 ①就労体験先を82社・団体に協力を仰ぎ、職業意識を高められた。東北ボランティアは4年目を迎え、平成26年度埼玉・教育ふれあい賞を受賞することができた。 ②文化祭・体育祭等の行事に参加してくれる保護者の人数が微増してきた。理事会参加は横ばいである。	

学校関係者からの意見・要望・評価等

○遅刻については学校の指導をしっかりしてもらいたい。近隣においても目立ってしまう。また交通の面からも危険が多い。

○家庭環境の厳しい生徒がいるのも現実だが、保護者に向けて子どもとのコミュニケーションの取り方を学ばせる必要がある。学校にはぜひ、「あいさつ」運動の強化をお願いしたい。生徒会が声かけ運動等、自発的に行っている姿はとても印象的で好感が持たれた。

○地域に対する美化運動はたいへんありがたい。是非今後も続けてもらいたい。

○高い授業満足度の維持のため、これからも先生方の努力を期待する。「授業が大事である」との心がけを生徒に浸透させてもらいたい。

○アンケートにおける昨年比ポイント上昇の部分は、本人のやる気や家庭の指導が大切であり、学校として多角的に取り組んでもらいたい項目である。

○欠点に対するご指導には保護者として感謝している。今後も工夫を凝らし、生徒のためになる寺子屋や補習授業の展開をお願いしたい。

○進路指導の充実はこの時節柄とても大事なことで認識している。そのなかで就職内定率100%に向けて努力していただいている先生方に感謝している。

○生徒一人ひとりをよく見てくれて、細やかな面談等も実施してくれており、安心できる。

○今後の進路指導の展開として、「グローバル社会」におけるキャリア教育が重要になると思うので、その点を主眼に置いた指導を進める必要がある。

○東北ボランティアのことで生徒が毎日新聞に掲載された。また就労体験の知事への報告会で朝日新聞に掲載された。地元の学校がメディアにあがるのはたいへん晴れがましく、喜ばしい。これからもこれらの事業は引き続き行っていただきたい。

○東北ボランティアは悲しさを感じることができる。どろいんきょ祭りの参加は地元との共同作業により作り出される伝統・文化の継承であり、生徒の心を育てる観点から、学校での活用を検討してはどうか。

○PTAとして、行事参加率の向上は課題であるので、学校と連携をして向上させていきたい。